



全ての人を支え合い、安心して働き暮らせるコミュニティの実現

ヨハネによる福音書13章
「イエス弟子の足を洗う」

SENZOKU vol.25

洗足



日本聖書協会発行「アートバイブル」より

13章 8節：ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。



CONTENTS

1. 巻頭言 P.1
2. 金附顧問を偲んで P.2…P.5
3. withコロナと神戸聖隷
 - ▶ コロナ対策部会 P.6
 - ▶ 各施設の働き方 P.7
 - ▶ 地域交流 P.8
 - ▶ WEB会議 P.8
4. 職員紹介 P.9…P.12
5. 社会福祉充実計画 P.13
6. ひがみ常務のエッセイ P.14
7. 事業報告 P.15・P.16
8. 決算報告 P.17・P.18
9. 牧師メッセージ P.19

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

〒654-0142 兵庫県神戸市須磨区友が丘1-1 TEL:078-792-7555 FAX:078-795-4511

<http://www.kobeseirei.or.jp>

パーソナルディスタンスに踏み入って

理事長 水野 雄二



今年新型コロナウイルスのために異常な年になりました。日本上陸から半年以上を経過しても、今なお感染拡大が続き、不安が払拭されません。(7月下旬現在)“3密”や“ソーシャルディスタンス”、“クラスター”や“テレワーク”など、聞き慣れなかった言葉が今や日常語になってしまうほど、コロナウイルスとの対峙が長期化しています。

神戸聖隷福祉事業団の各施設、各現場においても、通常時をはるかに凌ぐ細やかな神経を使った対応がなされています。マスク着用や手指消毒はもちろんのこと、日常プログラムの制限や飛沫防止のガード設置など様々な場面でのコロナ対策が実施されています。

しかし、福祉の現場においては、世間で言われるコロナ対応も実際は難しいものです。“密閉”“密集”は避けられても“密接”を避けることはできませんし、“ソーシャルディスタンス”を超えた“パーソナルディスタンス”が必要です。“テレワーク”が可能な職種も限定的です。

現場の職員がそのことを踏まえて、細心の注意を払いながらも覚悟をもって支援の業務に携わってくださっていることに敬意を表します。世間ではコロナへの不安が増長するあまり、医療関係者、介護関係者への偏見や差別も生じていると聞きます。それにもかかわらず、職員の方々の日々の踏ん張りに頭が下がる思いがします。

このコロナ感染は先が読めませんが、理念に立って、ご利用者の生命と尊厳を守るために日夜奮闘する職員の皆さんと共に、終息に至るまで最善の支援の業に努めます。

金附洋一郎顧問を偲んで



金附洋一郎 顧問

神戸聖隷福祉事業団第2代理事長として、また兵庫県精神薄弱者愛護協会(現兵庫県知的障害者施設協会)会長や兵庫県社会福祉施設経営者協議会会長など多くの要職を歴任され、社会福祉の発展に多大な貢献をなされた金附洋一郎顧問が2020年5月16日に帰天されました。享年91。52歳で日本グリース株式会社を退職された後、福祉の道に生涯を捧げられたその生き方によって多くの人々を感化し、また職員には学び続ける大切さ、将来を見通す重要性を伝え続け、常に我々をリードして下さいました。この度、生前に交わりがありました方々より追悼文を寄稿いただきましたので、ご紹介させていただきます。

金附洋一郎さんをおもう

特定非営利活動法人 にじのかけ橋 理事長 **武田 純子**



金附さんと親しくさせて頂いたのは息子が神戸聖隷福祉事業団を離れてからです。1990年(平成2年)より神戸明生園にお世話になり、1995年の阪神淡路大震災を体験し週末帰省が出来ない間、ボランティアに参加したのがご縁で障害者作業所を立ちあげました。当時和田山の元真生園園長森定弘次さんがボランティアで加わって下さり、設立時は副理事長として支えて頂きました。後に、にこにこハウス医療福祉センターの評議員のお話があり、金附さんと親しくさせて頂く機会が出来ました。NPO法人の事業を運営する立場になった私にとって金附さん・森定さんという経営・福祉の大先輩の存在は鬼に金棒以上の心強さがありました。久美奥様とは、にこにこハウス医療福祉センターの会議後、色々お話出来る事が楽しみでした。時には神陵台のご自宅にお邪魔した折には、まるで里帰りをしたような安らぎを感じました。「娘さんが近くに住まれて羨ましいわ。ここにいらしたら貴女を娘と思うわね」と言われ恐縮したのを思い出します。又日本財団の社会貢献候補に推薦いただき「僕は東京の授賞式には出られないけど神戸のお祝い会の発起人になるから場所と日程を決めておくように」と申し出て下さいました。とてもアットホームな和やかな会になり勿論ご夫妻揃ってご出席下さいました。御恩返しをしなければいけない私が金附さんを偲ぶ会の発起人に…と言われ、今度こそ金附さんにお礼を述べさせて頂く時だと感謝申し上げます。金附さんが神戸聖隷の現職時代は理事長としても厳しい方と聞いておりましたが、神戸聖隷を離れてから、より一層親しくさせて頂き、私の知る金附さんは慈悲深い好々爺としか映りません。「あなたたちが頑張ってる姿を見守ってますよ」と天国から、あの金附節が聴こえて来そうな気がします。どうぞ安らかに…

故 金附洋一郎先生との出会い

社会福祉法人 まほろば 常務理事 門口 守子



当時、神戸聖生園の園長だった金附先生に、誰の紹介も無く面識も無い私が、電話一本で「施設を創る手続きを教えてください」とお願いすると快く「いいですよ」と云っていただき訪ねたのが先生との初めての出会いでした。その日、申請に関する書類を色々とコピーして下さり、余りにも多かったので「コピー代だけでも払わせて下さい」とお願いすると「そんなこといいですよ、一日も早く良い施設を創ってください」と云われたのが昨日の様に思います。まほろばの初代理事長であった私の主人は福祉の知識が全くなかったのですが、先生から「何でもするのが福祉ですよ」と教えていただきました。新しい事業に取りかかりたい時は、まず先生に相談に行き、理事会に

かけて進めて来ました。障がい者の自立の道を見つけ、仕事も私生活も先生から教えをいただきました。何でもする福祉に多くの人の協力と先生のアドバイスで先進的な施設と評価を受ける事ができたのだと思います。福祉工場から始まった「ウェルフェアまほろば」が納税するまでに成長し、先生から「まほろばも社会的責任が出て来ましたね」と仰っていただきました。

宗教に携わる者にとって本当の宗教家との出会いだと主人は先生を尊敬し、色々教えていただきました。キリスト教と天理教の違いはあっても人の幸せを願う事はお互いによく理解し合うことができました。又先生の私生活は質素で頭の下がることばかりでした。お体が不自由になってからでも四階にある自宅までの階段をリハビリだと云って昇り降りされ、九十歳を過ぎても青年の様で、常に勉強され、ご自分が読んだ本の中からいろんな情報のレポートを毎月送って下さっていました。先生御夫婦は教会の礼拝日を唯一の楽しみにされていました。先生のお導きのお陰で、私達は間違えることなく無事に36年間お連れ通りいただくことができました。ありがとうございました。

最も小さい者のひとりに

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団 元顧問 小森 宏

金附さん、私が貴兄とお会いした時は、お互いに50歳後半で、その後神戸「聖隷」で働くようになってからも個人的なお付き合いはなく貴兄の人柄について深く知る由もありませんでした。その後貴兄が西神戸教会の会員であり教会の壮年有志の一人として、神戸聖隷福祉事業団を立ち上げられたことを知りました。

貴兄は将来のある順調なサラリーマン生活をきっぱりと捨て「自分を愛するように隣人を愛しなさい」の御言葉の実践者となりました。今日の事業団は、貴兄達の熱心な祈りと街頭募金活動に始まり、多くの困難を乗り越えて和田山に第一号恵生園を建設されて以来40有余年が過ぎました。その間貴兄は初代長谷川理事長を助け、長谷川理事長退任後は理事長としての責任ある立場にあって恵生園をはじめ多くの障害者施設や高齢者施設を開設されました。そしてその最高責任者として事業団全般の管理及び財政の運営に力を注ぐとともに、福祉

理論の研究や専門性を備えた有能な人材育成にも努められ県下でも有数の社会福祉法人に育てられました。そればかりでなく理事長という激務にあって、知的障害者施設「神戸聖生園」の園長も兼ねられ施設の利用者一人ひとりと優しく接して彼等の幸せを願っておられる姿を忘れることはできません。

イエスは私達に「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイによる福音書25章40節)と、語られました。

金附さんあなたの生涯は、まさにこの言葉通り、弱い人、悲しんでいる人達が人間らしく生きるために、彼等を愛し、彼等と共に生きられた一生でした。神は貴兄にあふれるばかりの恵みと慰めを与えて下さっていることを信じます。どうか安らかに。

金附元理事長の下で学んだこと

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団 理事 吉本ひろみ



私が法人に入職したのは1996年4月、神戸友生園に事務員として配置されました。

思いがけず2年後の1998年4月に本部事務員としての辞令を頂き、金附元理事長の隣で働かせて頂く事になりました。どうにか福祉事業の事務員の仕事を少しわかりかけた程度の私にとって法人本部での仕事は不安ばかりでしたが、金附元理事長は私のつたない質問にとっても分かりやすく丁寧に答えて下さいました。そのときには必ず、根拠となる物、福祉六法であったり、官報であったり、時にはご自身の資料文献であったりをわざわざ出してください「ここにこのように記載されているんですよ」と教えて下さるのです。

物事を調べる時、特に私達の仕事のように様々な法律に基づいて行わなければならない仕事の基本を学ばせて頂いたと思っています。今そのように出来ているかと問われれば恥ずかしい限りですが。そして、私のみならずどのような立場の職員、ご利用者、誰に対しても同じ言葉遣いで丁寧にお話をされるのです。これは簡単なようで実は中々出来ないことだと今も思っています。施設長をしておられた神戸聖生園の利用者さんと言葉を交わされる時は本当に楽しそうでした。また、細かい事務もご自分でされる方で、会議資料などのコピーや丁合など私に命じて下されば良いものを「やります」と申し出ると、「いやいや、あなたは自分の仕事をしてください」とさっさとご自分で仕上げてしまわれるのです。丁度2000年に社会福祉基礎構造改革の波が押し寄せ全国経営協から分厚い資料が度々送られてきていましたが、すぐに自宅に持って帰られ、次の日には相当な数の付箋がはられ、必要と思われる箇所をコピーし、最新の情報として当時の施設長の方々に発信しておられました。膨大な資料に囲まれていましたが、度々書類の整理をされデスク廻りは常にすっきりと片付いていました。19時半になると「そろそろしましましょう」と仰り、当時学園都市にあった「喫茶ふれあい」に向かい、店長である奥様の久美さんと共に帰宅される毎日でした。ここには書ききれない程様々な事を教えて頂きましたが、何よりも常に前を向き最善を尽くす姿勢を見せて下さいました。そして理事長を退かれてからも「金附レポート」を送り続け私達の背中を押して下さいました事に感謝申し上げます。ようやく神様の下で奥様と二人のんびりと過ごしておられる事を心より願います。

隣人愛と6ツのS

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団 常務理事 吉田 和夫



バブル崩壊後の1992年4月に就任した金附理事長は、同時に兵庫県精神薄弱者愛護協会(現、兵庫県知的障害者施設協会)会長や兵庫県社会福祉施設経営者協議会会長として活躍されたのですが、こうした要職が、神戸聖隷の理事長だからという理由で飛び込んできたわけでは決してなく、「油をいじくってばかりおった技術者(40年記念誌対談でのご本人の表現)」が、通所授産施設に有期限の「卒園」という概念を定置し、その後の生活支援にも取り組むというような先進性で全国に名をはせる神戸聖生園の支援プログラムが象徴する、熱心な現場学習の上に一人ひとりの利用者にとって施設と施設サービスの役割とは何かを探求し、そして社会全体を俯瞰した広い視野で社会資源としての社会福祉施設運営に徹底して取り組んだ先見性と挑戦性にあふれた実践者であったがゆえでありましょう。

その当時は社会福祉基礎構造改革、また介護保険制度の創設過程に重なり、超高齢社会を目前にして、もはや旧来の社会福祉法人だけに高齢者介護事業を任せては介護サービスが圧倒的に不足するとの判断で、当時、ドイツとオランダだけにしかなかった介護保険制度をわが国にも創設し、そのサービスの供給者として民間事業者の積極的な参入を求めることになったわけですが、この社会福祉制度改革の過程を金附理事長は要職にあるだけに、きわめて深く考えられたことが当時の法人文書から窺われます。

基本理念の位置づけも金附理事長には独特な役割認識があるように感じます。現在の基本理念は2002年に制定していますが、これは私見ですが、金附理事長は制定責任者であったけれど、制定委員の意見を取り入れた結果、金附理事長の思いとは少し違ったものになったのではないかと思えてきます。それと言うのは、金附理事長は1998年7月に「基礎構造改革と法人の中期対策」と題した幹部職員向け文書の中で、「理念」と題して①公共性、②独自性、③社会性、④公開性、⑤専門性の5つを表明しています。もともとご自身が教会の祈りの中から社会福祉へ乗り出した「創業の理念」を、キリスト教の「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」の教えに置きながらも、今後多様なプレーヤーが参入する中で神戸聖隷が明らかに社会福祉の世界で輝ける独自性、明確な「違い」を発揮するために必要なこととして、これらの5項目を強く職員へ訴えているのです。

自分を律する戒めとしての信仰をあえて表に出さないで、その存在そのものはだれが何と言おうとも、見事に信仰者としてこの上なく真摯で利他的なこと限りないのに、行動は実に理系人間としての合理性に覆われ、私たち部下への働き掛けも非常に明快な言葉で行われたと感じます。そしてその最たるメッセージのツールが、2000年1月1日に「2000年を迎えて法人の特色を活かそう」と題した施設長会向けの3頁物の年頭文書で示された、日常に心がけるモットー「6ツのS」です。アメリカのホテルの掲げるものを借用されたようでしたが、SMILE(ほほえみ)、SMART(気の利いた、しゃれた)、SPEEDY(敏速)、SINCERITY(誠実)、STUDY(勉強、研究)、SPECIALTY(専門、特色)の6Sです。

このような行動方針が示されたことには、福祉サービス水準を評価するときや、より日常的に今日の仕事の始まるときに心がけてみよう、自ら思うことなどにつながっていくと思えて親しみがわいてきたものです。この6Sには金附理事長はなかなかの思い入れがあったように感じましたが、いまもどこかのロッカーの扉に6Sステッカーが貼られているかもしれません。



と神戸聖隷 ●対策本部

世界保健機関(WHO)が新型コロナウイルスの「パンデミック(世界的な大流行)」と表明した3月、当法人では「新型コロナウイルス対策本部」を設置し、法人としてのトータルな対応策を検討してきました。ここでは、対策本部からの報告を中心に、施設・事業所の取組、そして「with コロナ」の働き方についてご紹介します。

但馬地区

新型コロナウイルス対策の現状と今後

新型コロナウイルス感染症対策本部 但馬地区本部長 種谷 啓太

朝来市、養父市、豊岡市、新温泉町、香美町の3市2町からなる但馬圏域において3市に法人事業所が7つあります。圏域での新型コロナウイルス感染症患者の発生は比較的遅く、8月13日より現在9月7日までに10人のPCR検査の陽性者が確認されております。

法人の但馬地区各事業所では就学前の児童から、特養の高齢者まで幅広い年齢層の方々が利用されていますが、特に高齢者の介護施設、障害者の生活介護施設での感染症への緊張感はこれまでにないものでした。とりわけ職員の感染症持ち込みへのプレッシャーが大きく、法人として感染防止の具体策、休業補償、特別休暇の取得、在宅勤務実施など法人が3月に設置した対策本部から、それらについての説明文書、対応マニュアルの発信を継続しております。

幸いにも但馬地区では2009年の新型インフルエンザ(H1N1)の対策で行動計画を策定しており、非常時の職員派遣も含め、事業所共同で災害時備蓄品として非常食、マスク、グローブ、消毒薬などの保管などのマニュアルを活用し対応しております。また新型コロナウイルス感染症に対し、事業所ごとの対応ロードマップの作成をおこない、さらに事業所内で発生した際のマニュアル作成もおこなっています。しかしながら新型インフルエンザ対策の行動計画では事業の縮退や対応方法などは言及されておらず、新たな行動計画として法人共通の事例報告用式を作り、対策本部にて集約しております。それから但馬地区施設長7名で事例報告の共有を図り、対策を検討するとともに、予防策への取り組みを重ねております。

神戸地区

新型コロナウイルス対策の現状と今後

新型コロナウイルス感染症対策本部 神戸地区本部長 有川 洋司

今年の2月頃から新型コロナウイルスの感染が国内で増え始め危機感が高まる中、まずは神戸地区の入所施設の施設長を中心に対策について話し合いました。そこでの話し合いを踏まえ、3月に神戸地区全体での緊急の連絡会を持ち、衛生用品の備蓄状況の確認と神戸地区の入所施設2施設で感染者が発生した場合に通所施設を中心に職員を派遣するなど地区全体で支える応援体制を構築することについて共有しました。

この間、施設においてウイルスを「(施設に)持ち込まない、持ち込ませない」ということを強く意識し、感染防止の徹底を図りました。職員は出勤前の検温やマスクの着用はもちろんのこと私生活においても感染リスクを避ける行動に努めました。また、施設のプログラムにおいても外部の講師やボランティアの方の受け入れを休止したり、入所施設のご利用者の帰省や外出を中止していただくなど「持ち込ませない」ことを徹底するためにご利用者にもご理解とご協力を求めることも多々ありました。そのような状況のなか、施設側も飛沫防止のために食事用のテーブルに手作りの衝立を設置したり、ご利用者同士の距離を保つために座席の向きを変えたり、密集を避けるために時間をずらしたりと知恵と工夫によって感染防止を徹底するための努力を続けています。

緊急事態宣言が解除された後、一時的には小康状態にあった感染拡大状況も再び増え始めてきています。治療薬やワクチンについて決定打がないなかではこのような波が繰り返されていくことでしょう。しかし、私たちは新たな知識や情報へのアンテナは張りつつも感染防止のためにひたすら地道な努力を続けることでご利用者が安心して生活できる支援を提供し、その職員がご利用者への支援に安心して取り組める体制を地区全体で支えていくことで希望を持ち続けるこの未知なる状況を乗り越えていきたいと思っております。

但馬地区

「新型コロナウイルス対応の現状と今後」

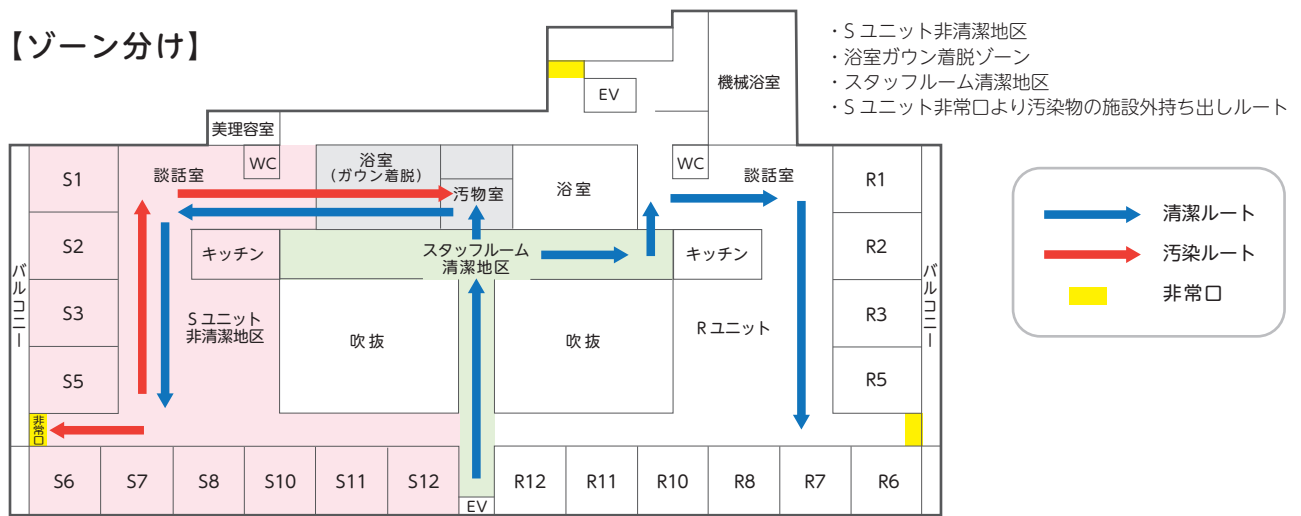


さくらの苑 施設長 小山 哲也

新型コロナウイルスが今年の2月頃より感染が広がり皆様方も日々感染予防対策に努めておられると思います。さくらの苑のある地域においても感染者が確認され、施設では徹底した感染予防対策を実施しています。今回はさくらの苑での感染予防対策を紹介させていただきます。

さくらの苑は、高齢者施設で基礎疾患があるご利用者が多くおられます。8月末現在兵庫県が感染拡大期Ⅱの状況であることから、施設のロードマップに則り家族様の面会や業者の出入りを制限すると共に手指衛生の厳守、ご利用者や職員の健康管理などを行い施設内にウイルスを持ち込まないように取り組んでいます。また、予防対策実施と同時に施設内にて感染者もしくは濃厚接触者が発生した場合を想定したゾーンニングや備蓄品確保など検討しました。施設内は4つのユニットに区切られ全て個室となっているためゾーン分けをユニット毎に区切り、職員の動線を清潔地区から非清潔地区へ出入り時の防護服着脱場所(浴室)を設け、汚染物は非常階段を使用することで施設内を通過することなく施設外へ持ち出すことができるルートを確認することができました。図1を職員間で共有し直ぐに対応できるようにしました。ご利用者や職員の安全確保するため感染予防に全力で取り組んでまいります。

【ゾーン分け】



神戸地区

「コロナ禍の働き方」

神戸市立中部在宅障害者福祉センター 所長 森崎 康文

2020年4月7日に緊急事態宣言が発令され、通所施設の利用自粛要請、複数事業所利用者の一元化等が求められました。中部在宅障害者福祉センター(以下、在障)では、多くの利用者が利用自粛を選択されましたが、中には在障を利用する以外に支援が期待できない方も少なからずいらっしゃり、利用者が在障に来られる限り、利用者も職員も感染発生がないよう、種々の対策を講じました。在障の3つのフロアを一体のものとして、消毒・健康管理に努めています。

ただ、施設の利用プログラムは大きく制限せざるを得ず、利用者の皆さんには、ストレスを感じられた方も多かったのではと思います。しかしながら、コロナ対応が長引く中、利用者も職員も状況を理解し、対応できていたように思います。

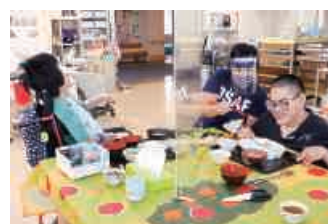
自宅待機を選択された利用者の方への支援も、職員がアイデアを出し合い、生活リズムの維持、可能な訓練等を行いました。はじめてのことで、経験の裏打ちもないままに、手探りしながら、進めました。

職員の勤務においては、通勤の緩和ということで時差出勤や、在宅でのリモートワークを取り入れました。中でも在宅では、利用者とは接することなく、障害者理解、制度理解等の学びを通して、支援の在り方を考える機会になったのではないかと思います。その後、宣言解除により、利用者の方が戻り、相談者の方とも面談できるようになり、活気が戻ってきたように思います。

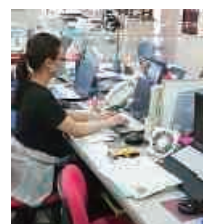
まだまだ、コロナとの付き合いは続きますが、感染に注意しながら、ご利用者の支援にしっかり取り組んでいきたいと思っております。そしてこの経験を無駄にしないように伝えていきたいと思っております。



消毒・検温依頼



食事介助



密の回避

地域交流

「おいでやすカーニバル中止のお知らせと
コロナ禍の地域交流」

せいれいやさかだい 施設長 岩井 誠一

「第40回おいでやすカーニバル」は新型コロナウイルスの影響もあり中止致しました。誠に残念ですが、ご協力いただく地域住民、各学校関係者、ボランティア、2,000人以上の来場者の感染防止の観点から判断をいたしました次第です。

北須磨団地自治会で継続しておこなわれている地域交流(サロン活動・調理訓練・卓球・喫茶)は、ソーシャルディスタンスと人数制限を保ち、感染拡大の状況を見つつ継続しています。地域の皆さんとの交流で一番盛り上がる喫茶でのカラオケについては、飛沫感染を回避する観点から、現在は自粛しております。また、地域における行事やイベントの開催についても自粛する内容が数多く出ており、従来のように地域の方と一緒に楽しく過ごせるようになるには、まだまだ時間がかかりそうです。地域交流の第一歩は、お互いに健康に留意し気遣うことが大切だと思います。これからも地域と共に頑張りますので応援の程よろしくお願いいたします。

サロン活動

近所の方を招いて
お好み焼き作り

自治会館で喫茶

ソーシャルディスタンスを
保ちながら
いただきました

Web会議

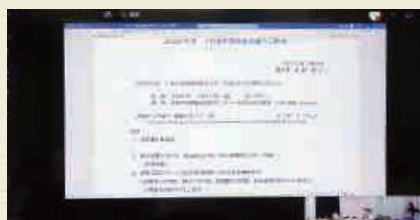
Microsoft Teams が活躍中

法人本部 事務長 村山 盛光

新型コロナウイルスは会議の持ち方も大きく変容させました。6月2日の第212回理事会では理事会初となるテレビ会議(Microsoft Teams)方式にて開催されました。発言しない時はマイクをオフにするなど、ちょっとしたコツさえ掴めば、十分に意見交換ができ、加えて、但馬、神戸間の移動時間を大幅にカットすることにもなり、感染予防のみならず、働き方にも大きな変化をもたらせたと思います。現在は、常任理事会、全体施設長会、地区連絡会、各推進部会議等、ほぼ全ての会議に導入され、法人内研修においても、ITツールを積極的かつ有効に使う予定でいます。



地区施設長連絡会



全体施設長会



第212回理事会



恵生園
足立 潤子

- ①様々な個性、考えを持った方と接することができることです。
- ②私生活で英会話にチャレンジしています。海外旅行先で現地の方々と触れ合うことが好きなので、より一層コミュニケーションを取れるようになりたいと思っています。
- ③いつも笑顔で、誰でも話しかけやすい雰囲気を保つことです。



神戸愛生園
石田 翼

- ①1番良かったと感じる事は愛生園内の人の良さです。何度でも優しく丁寧に教えて頂けるのでとても仕事がしやすく楽しいです。
- ②一人暮らしをしているので自炊にチャレンジしており、お弁当を毎日作って仕事に持って行っております。
- ③私自身と私の周りにいる方々が笑顔で過ごせることをモットーに生きております。



神戸愛生園
石田 奈津子

- ①私は初めてこの職業に携わらせていただいていた戸惑うことはまだまだありますが小さなことでも達成できると大変嬉しく感じ、利用者の皆様と通じ合えたと思う瞬間が1番働いて良かったと思える瞬間なのでその気持ちを大切にこれからも働いていきたいと思います。
- ②あらゆる場面で利用者さんの気持ちになってみる。
- ③何事も諦めずコツコツ努力



ワークセンターひょうご
川田 雪乃

- ①社会人としても一年目で緊張していましたが、優しく声を掛けて頂いて嬉しかったです。気さくに話しかけてくださる方も多く、楽しく安心して働けます。
- ②私生活では今まであまりしてこなかった自炊にチャレンジしています。仕事では毎日、その日の目標を立て、達成できるようにしています。
- ③明るく、人に優しく



神戸明生園
國廣 由美

- ①たくさんの事業所があるのでたくさんの人と出会う機会がある事がとてもうれしいです。これからも色々な人と会えることが楽しみです。
- ②去年から四国お遍路をしています。今年はコロナウイルスの影響であまり進んでいませんが今年は閏年なので逆打ちすると3倍のご利益があるそうです。ステイホーム中は筋トレにもチャレンジしています。
- ③健康維持の為、仕事でもプライベートでもたくさん動くようにしています。



ひょうごデイ
小阪 清美

- ①短期入所アクシスひょうごの利用者様は支援内容が多岐に渡る方が多く、安心して過ごして頂けるように日々取り組んできました。利用者様との信頼関係も篤くなってきていると実感しています。人間関係や職場環境に恵まれたアクシスで自分らしく働ける事に感謝しています。
- ②孫(5歳児)との逆上がり、仕事ではPC入力を両指で(笑)
- ③まずはやってみる!

質問

- ①神戸聖隷で働いて良かったこと
- ②私生活、仕事でチャレンジしていること
- ③あなたのモットーは？



しごとサポート中部
齋藤 麗奈

- ①「働きやすい職場環境」です。非常勤から始めて3年目になりますが、皆仲が良く、相談しあえる環境なので、和気あいあいとしています。また主任・副主任が悩みを聞いてくれることも働く環境として心強いです。
- ②仕事では挨拶に一言添えるように取り組んでいます。私生活ではコロナダイエットに取り組んでいます。
- ③「ポジティブに返す」



神戸明生園
坂元 明日花

- ①毎日ご利用者と接する上で、大変な事もありますが、ご利用者の笑顔を見るとすごく嬉しくなるし、ご利用者と毎日楽しく過ごせることが嬉しく思います。
- ②仕事や私生活で頑張っていることは、仕事に行きながら教習所に通っていることと、毎日早起きして、往復三時間かけて職場に通勤していることです。
- ③自分のモットーでは、今は未熟な新人ですが、先輩方のように、ご利用者の方達に、安心してもらえるような支援員になりたいと思っています。



神戸聖生園
島田 晋弥

- ①神戸聖隷のいいところは、休日の多さと資格取得へのサポートが充実しているところです。自分の時間を多く持つことができるだけでなく、自己研鑽に対しても支援があるところが神戸聖隷のいいところだと思います。
- ②コロナ禍ということもあり、屋外でできる、釣りを始めました。まだ、エサをつけることにも手間取りますが大物を狙いたいです。
- ③私のモットーは、言葉や口先だけではなく、その先の行動に移すことです。



せいれいやさかだい
高村 典子

- ①ご利用者との距離感が近い。喜びや楽しんでいるなど感情や表情を間近で感じられる。一緒に楽しめるプログラムを作りやすい。
- ②指談を始めて4年が経ちました。ようやくコツが掴めてきました。「ゆびだん」とは?!興味を持たれた方は、お尋ねください。一緒に練習しませんか?
- ③やりたいことを一緒に探し実現する。自分が楽しいと思う事を一緒に楽しむ。支援の合間に事業所の庭でトマト、イセヒカリ、おくら、ニラを栽培してご利用者と収穫を楽しんでいます。



さくらの苑
谷岡 秀美

- ①職員の皆さんがとても優しいことです。分からないことや困ったことがあるとすぐに対応してくださり、気にかけていただいているんだと感じます。
- ②まだ特に決まっていませんが、今は仕事内容を覚える時期なので、これから1人でやることになっても不安なく出来るようになっていきたいです。まだまだ目の前の仕事をやるだけで手いっぱいなので、もっと余裕を持って周りを見て仕事ができるようにこれから頑張っていきたいです。
- ③失敗を恐れずに行動することをモットーにしています。やってみないと分からないことも多いので、色々なことにどんどん挑戦していきたいです。



神戸聖隷総合相談センター
富井 祥一

- ①神戸聖隷で働きはじめて3年目になります。さまざまなバックボーンをもつ職員が多く、刺激を受けています。
- ②法人の内外を問わず、たくさんの人と協力して地域づくりをしていきたいです。私生活ではバーベルスクワット 150kgが目標です。
- ③モットーは「自由」で、自由の砦を守れるように日々鍛えていたりいかなかったりします。

質問

- ①神戸聖隷で働いて良かったこと
- ②私生活、仕事でチャレンジしていること
- ③あなたのモットーは？



神戸明生園
富井 瑠香

- ①障がい者支援に携わること、利用者様と関わることがこんなに楽しいということ、日々お仕事を通して体感させていただいていることです。
- ②晴れの日には往復1時間、自転車で通勤しています！（電動自転車ですが…）
- ③利用者様、ご家族、他の職員のみなさま一人ひとりに愛をもって接することを目標にしています。



自立センターひょうご
中谷 弘美

- ①一番は、パワーをいただけるご利用者の皆様、励まし合い協力し合える職場の皆さん、ご利用者支援に多角的視点から共に携わってくださる他職種の皆さん、よく声を掛けてくださる地域の方など、多くの方々との良き出会いがあったことです。
- ②新型コロナウイルス感染症の影響により大きく変化した日常の中で、新たな形での楽しく充実した日中活動や祝日イベントの実施です。
- ③一日一笑。



神戸愛生園
東田 優基

- ①私が、神戸聖隷（神戸愛生園）で働いて良かったなと思う事は、施設の雰囲気がよく、利用者さんの笑顔が多い事です。日々の業務の中で、その笑顔に支えられているなと思っています。
- ②私生活では、楽器の演奏（フォークギター）にチャレンジしています。もともと音楽を聴くのが好きで、好きな曲をギターで弾いてみたいと思っ少しずつではありますが練習しています。
- ③私のモットーは、「継続は力なり」です。どんなことにおいても継続することで力や成果になると思います。仕事においても、また私生活においても意識しながら続けていきたいと思ひます。



さくらの苑
日向 優香

- ①多くの人と関わることができ、自然と短所であった人見知りもなくなりまひた。また、未経験から始めた事務の仕事も、周りの方に助けられ多くの事を吸収する事が出来ていひます。
- ②日商簿記3級の取得を目指して日々勉強してひます。日商簿記の資格を取得することによって知識も増え、仕事の幅が広がると考えてひます。資格を取得できるよう頑張りたひです。
- ③『努力は人を裏切らない』です。必ずしも良い結果が得られるわけではないですが、努力を重ねた時間は自分の強みや糧になってくれると思ひてひます。



北但広域療育センター 風
真狩 洋子

- ①「できた」「わかった」に繋がった瞬間の子ども達の笑顔が見れる事です。
- ②今は、快適に過ごせるマスク作りです。生地や素材や、マスクの形状など色々試してひます。
- ③「石の上にも三年」です。すぐに諦めてしまわずに、自分が信念を持って決めた事にはじっくりと、しっかりと腰を据えて向き合っていきたいと考えてひます。



恵生園
水戸 靖則

- ①経験豊富で優しい先輩方がいてくださるので困ったことがあれば相談しやすひです。
- ②今まで関わりの無かった利用者様と関わるようにして支援の幅を広くしてひこうとしてひます。
- ③余裕をもって行動することです。



平生園
森田 彩楓

- ①神戸聖隷福祉事業団 平生園で働いて良かった事は利用者さんと関わり、何気ない小さな事に対して感謝の言葉を頂いた事です。
- ②私生活で頑張っていることは家事です。学生時代にあまり家事をしなかったので、休みの日はなるべく家事を行っています。また、仕事では一つ一つの介助を丁寧にを行うことを心掛けています。まだまだ、勉強することが多いですが頑張ります。
- ③私のモットーは何事にも誠実に取り組むことです。利用者さんや職場の先輩方に対しても誠実に関わるように意識して行動に移していきます。



真生園
保田 昌樹

- ①真生園で働いている職員は、楽しそうにご利用者一人ひとりに寄り添って支援していて、とてもいい勉強になります。また、ご利用者の行動や言葉をその背景から考え、肯定的に捉えられているので見習おうと思います。
- ②私生活：ラーメン激戦区大阪市のラーメン屋ランキング
仕事：ご利用者と一緒におしゃれを楽しみたい
- ③今、汝は画れり…チャレンジする前から諦めるな!!

新任施設長あいさつ



さくらの苑 施設長 小山 哲也

この度、地域密着型特別養護老人ホーム さくらの苑の施設長に着任いたしました小山 哲也と申します。さくらの苑では、開苑前より立ち上げの準備に携わり、介護課長として3年間勤務してまいりました。先日、法人基本理念について振り返る機会があり、「隣人を自分のように愛しなさい」の箇所を読み、「隣人の立場が自分だったらどう思うか、どうしてほしいか」をご利用者やご家族、地域の皆様、職員の思いなどを意識して接することができていたか再確認することができました。施設長として「隣人愛」を意識し、皆様から「竹田の街にはさくらの苑があるから安心」と言っていただけの日が来るように取り組んでまいります。



めぐみ 起工式

QOL推進部 部長 種谷 啓太

2020年6月5日(金)10:30よりさくらの苑横の更地にて放課後等児童デイサービス・共同生活援助の多機能型施設めぐみの起工式をおこないました。

起工式は日本キリスト教団和田山地の塩伝道所 主任教師 小西直人牧師の司式のもと礼拝形式でおこなわれました。折からの新型コロナウイルス感染症禍であり、讃美歌、聖書朗読、メッセージ、挨拶というシンプルな形でしたが、2021年1月末までの工事期間と関係者の安全を祈りました。

建物の完成後にはこれまでに途切れていた学童に対する支援を行えることで、利用者の皆さまが安心して地域で暮らしていける礎となれればと願っています。



神戸聖隷オアシス(友が丘総合事業) 起工式

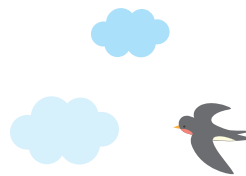
地域貢献推進部 部長 加藤 成久

2020年6月10日(水)旧建物が解体されて更地となった神戸聖隷オアシス(友が丘総合事業)の3階建てビル予定地において、(株)ソネック様、(株)黒田建築設計事務所様、友が丘地区の施設長、当方本部ら関係者が出席して起工式が執りおこなわれました。式では竹内富久恵牧師のメッセージ、福島孝一(株)ソネック代表取締役社長、山本要(株)黒田建築設計事務所代表取締役社長のご挨拶、当法人理事長水野雄二の挨拶を通して、工事の安全と建物や周辺設備の完成を願い祈りました。そしてこの建物に期待される役割、つまり利用者の皆さんの様々な活動や、地域共生・地域貢献活動の場所となりそれらの実践拠点となる準備をしていくことを確認しました。

神様の豊かな恵みがありますように。



ビル完成予想図



起工式会場



起工式風景

ひがみ常務の
essay エッセイ



「いなか者の百姓を兵隊にしちゃあいけん」

宮本輝さんの『流転の海』は、37年かけて一昨年に全9巻の終章を迎えた自伝的大作です。私は長い単身赴任の超効率的（ほかにすることのない）日常のおかげで、その最終盤にまとめ読みをいたしました。この本の第2巻に、終戦後6年経って、栄養失調の極みで両手指の爪が抜け落ちた体で復員してきた音吉が語る言葉が痛切に脳裏にこびりつきました。「いなか者の百姓を兵隊にしちゃあいけん」。

異様なほどの残虐性を発揮するというのです。もちろん音吉は自身がその「いなか者の百姓」であり、ビルマの収容所での自らの所業への悔恨の情に苛まれています。この夏も暑く、私の還暦をとうの昔に過ぎた体には休日の農作業がともしんどく、少し体を動かしてはスポーツ飲料をがぶ飲みということになっていましたが、そんな時、わが父も行かなかつたゆえに肉親の言葉としては聞けなかった太平洋戦争の戦地の過酷さをいつも想像するのです。同時に南方だけでなく、音吉の言葉を反芻しつつ知識階級による日中戦争での傲慢を思うことでした。

ここで紹介してよいか迷いましたが、京都・白川学園の前の副園長の岩木健さんが、津久井やまゆり園事件の犯人のやった、「かつては知り合いだったかもしれない40数人の肉体をつらぬくナイフの感覚」を、「彼の行為が自分のアイデンティティのアリバイ作りにすぎなかった」のではないかと書いていると書いておられます（つくもNo.636）。私はこのアイデンティティのないことの表現が、戦地での残虐性と同質なもののように感じます。

あおり運転。皆さんは大丈夫だと思いますが私には、必要以上に接近して先行車をチェースするようなことが、今は誓ってありませんが、45年間の運転歴の中ではありました。ドライビングという高揚感のなかで、自分の生き方などには全く関係ないのにその瞬間はあたかも別な自分がおかしなヒーローのごとく振舞うというような己の姿を恥ずかしく思います。

そしてコロナ禍、「感染者狩り」が由々しいです。当法人も3月13日に対策本部を設置してこれを書いている8月1日までに18回の定例会議を持ちながら、主に感染予防のための注意喚起を行ってききましたが、果たして新型コロナウイルス感染は避けられるものなのか?と思い始めています。誰も完全に社会活動を避けることは難しく、したがって万人に感染のリスクはありますから、感染された方の尊厳まで否定するようなことは絶対にしないことが求められます。そのことこそ、この時代の人びとのアイデンティティと考えますがいかがでしょうか。

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団

常務理事 吉田 和夫

2019年度

事業報告

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」(ローマの信徒への手紙 12:15)

理事長 水野 雄二

2019年度も神の豊かな恵みの下、ご利用者、ご家族のご理解を受けて、また職員の献身的な働きによって、事業を遂行することができました。本年度も時代の変化、地域の変容に気を配りつつ、将来のビジョンに向かって引き続きしっかりと歩みを進めることができました。しかし、2020年1月から顕著になった新型コロナウイルス感染拡大の影響は年度末に至って現れ、ご利用者支援方法の修正や職員研修や会議の中止など、通常とは異なる対応を迫られ、感染拡大防止に向けて法人を挙げて対策を講じることとなりました。

神戸聖隷福祉事業団は2017年度より第3期中期計画を実行しました。本年度は最終年となり、その成果が問われる時となりました。初年度から6つの中期事業目標に対応する部会、即ち理念理解定着部会、職員育成推進部会、QOL推進部会、経営強化推進部会、地域貢献推進部会、人事・労務・危機管理推進部会を構成し、具体的な取組を始めましたが、それぞれの目標達成に向けて1年の歩みを進めました。同様に各施設における第3期中期計画も最終年の試みが実施され、また、同時に社会福祉充実計画も継続され、3年目の計画が実行されました。それぞれに計画した全てを遂行できたわけではありませんが、今後は更に第4期中期計画(2020～2022年度)に引き継がれ、計画完遂を目指していきます。

地域共生社会の実現に向けた課題は、本年度も大きな課題として取り組みを継続しましたが、特に友が丘(神戸市須磨区)における新事業所建設、また竹田(朝来市和田山町)における新施設建設は着工を迎える準備が整い、次年度のビジョン実現へ大きなステップアップとなりました。また、本年度は新しいグループホーム3か所の開設が続き、ご利用者の地域での生活が豊かなものとなるように機会を提供することができました。

人口減少社会の中、福祉人材の確保の困難さが厳しさを増しています。本年度における新しい人材の採用状況は低調に終わり、更なる取組強化が求められます。また、「働き方改革」が叫ばれる中、職員が喜びをもって、働きやすい環境の下で業務を全うできるように、システム整備を進めることができました。

多様なご利用者お一人おひとり、そして多くの職員の一人ひとりが共に生きるしあわせを感じることができるよう「共感の支援」のクオリティを高め、喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣くことができる場として、豊かな関係性を保つ法人としての歩みを刻む1年となりました。

第3期中期計画の3ヵ年度目として

理念理解定着部会

中期事業目標 ①

社会福祉法人の使命を果たすため、固く理念に立ちます

2017年度から活動を開始した理念理解定着部会を推進役として、法人の基本理念の浸透と定着を目標に、2019年度も3ヵ年目の事業を進めました。本年度は3ヵ年の事業評価の年として、前年までの事業を発展的に継続しました。神戸聖隷に関係する多くの方が基本理念に触れる機会を増やすと共に、職員に向けては理念の神髄に触れる機会としての研修の場を設定し、6月には神戸における先輩法人であるイエス団で、1月には浜松市の聖隷グループで他法人理念研修を行い、それぞれの参加職員にはインパクトのある大きな学びとなりました。また、理念研修としての特別講演会を開催しようと神戸市内の他法人と共に準備を行い、2月にカトリックの片柳弘史神父を迎えての講演会を実施することができました。これらを通して理念研修の質を上げる試みを続けてきました。未実施のこととして、職員の連帯意識醸成のための「職員の集い」の開催を検討してきましたが、多忙な職員への負荷を考慮して第3中計期間内実施は断念し、継続課題としました。

法人理念を考えるツールとして、従来から使用されてきた「基本理念Q&A」に替わる教材としての「神戸聖隷ハンドブック」を各施設で広く活用することができました。活用アンケートを参照した改訂作業を進め、3月末に第2版の改訂版を発刊することができました。

多くの職員が、この法人で働くことの意味を日常的に考えながら、その働きに喜びと誇りを感じることができるよう、第4期も法人全体として理念浸透に向けてのアプローチを続けていきます。(理事長 水野雄二)

職員育成推進部会

中期事業目標 ②

福祉人材の確保と育成に努め、やりがいのある職場を作ります

福祉人材確保・2020求人活動については上半期の実績を踏まえて、採用試験日を増やし、活動内容を強化し取り組みましたが、大きな受験者増には至りませんでした。結果、新卒者は9名、登用者は11名 合計20名となりました。目標達成には至りませんでした。2021採用に向けて大学の先生・授業を介した学生との繋がりや実習(インターンシップ・ボランティアも含む)を、強化ポイントを挙げて取り組みを継続します。

内部研修について、予定していた研修については講師等との調整のうえ、中止や変更がありましたが、実施できました。延期を余儀なくされた研修がありましたので、外部研修や研修コンサルタント会社と組んだ新研修と合わせて次年度の内部研修で実施します。年間の延べ研修参加職員数は356名でした。

Web会議についてはLive Onシステムを継続利用しました。利用回数(年間94回)は、会議予約(42件)と合わせて増加しています。システム周辺機器の充実と拠点数の増加を図りながら、システムをより快適に使えるように継続していきます。

研修助成については社会福祉充実計画No.①の自主研修助成については15名、No.②の介護福祉士、実務者研修については10名の研修費助成が完了しました。

「新型コロナウイルス感染防止対策」の為、係る2019年度の実施計画について中止、変更、延期等の対策を行いました。(理事 有川洋司)

中期事業目標 ③

ひとり一人のQOL(生活の質)を生涯にわたって支えます

第3期中期計画のQOL推進部の3か年の報告をいたします。

各事業所の利用者のQOLを高め、それを支えることを主眼としての3年間取り組みましたが、「QOLを生涯にわたって支えます」という次元はまだ先だと感じています。

職員不足という課題の中で、各施設の身動きがあまり取れなかった感があります。推進部からの取り組みはサービス提供にかかわる職員の態度・言動やQOLの向上のチェックに終わり、その集計から評価し各施設と共に考えるまでには至りませんでした。

第4期中期計画では各施設でPDCAサイクルを廻し、自ら気づき、自ら直し、自ら行動するシステムの構築を目指したいと思います。

以下、第3期中期計画QOL推進部の実施結果を報告します。

- ①全施設での第1期標準マニュアルに基づいた施設マニュアル(6項目)作成は出来ました。第2期上期・下期の各施設マニュアルは2020年度10月完成予定です。
- ②第三者評価の受審は、最終年度6施設が受審し3年間で全施設の受審が終了しました。
- ③虐待防止チェックリストは上期・下期の2回実施しました。集計結果を受けての施設訪問は出来ませんでした。虐待防止基準表・判定表の運用は上期に全施設での共通事例を用いての学習会を実施、下期に各施設での事例を用いての学習会を実施しました。
- ④2018年末に作成しました接遇ハンドブックにつきまして、年4回の接遇アップキャンペーンを実施しました。満足度調査は2018年度分の集計結果にQOL推進部より各施設にショートコメントをつけ回答しました。2019年度分については集計を行いました。
- ⑤事故・ヒヤリハット対応と高齢化・看取りにつきましては進展出来ませんでした。(理事 種谷啓太)

中期事業目標 ④

社会的使命を果たすために、安定的で規律のある経営を続けます

利用者延人数・給付費収入の年度目標値達成については、7月まで計画通り推移しましたが、8~10月の台風襲来、1月のインフルエンザ蔓延による臨時休業に加え、3月には新型コロナウイルス感染拡大による利用控えの影響等により、法人全体で利用者延人数は対目標値-1.3%(▲4,297人)、給付費収入も-0.2%(▲5,042千円)となりました。

昨年度マイクロバスを購入し運行を開始した送迎ルートに加え、神戸市北区のご利用者を対象にもう1ルート増やす計画を進めましたが、追加整備する車種や対象利用者、また、それに伴うルートの選定など確定に至らず、2020年度に延期することとなりました。

先進福祉機器導入については、さくらの苑に座位での入浴をアシストするホームリフト・ご利用者の見守りを支援する眠りスキャン、神戸明生園に眠りスキャン・ペットロボットaibo、真生園に重度障害者入浴支援のためのシャワーバスを整備しました。また、ひょうごデイサービスセンターに整備したマッスルスーツ・重量1.8キロの超軽量パワーアシストスーツエアロバックに神戸市より補助金決定(補助率10/10)の内示がありました。

入所施設で多大な労力をかけ作成していた勤務表ですが、人事労務危機管理推進部と協働で整備した勤務表作成ソフトのAIと入力補助機能を活用することで、作成者が理想とする勤務表の5~7割程度を2~3分で作成出来るようになりました。(理事 西山充)

中期事業目標 ⑤

安心して暮らせる地域の実現に努めます

今年度予定していた福祉避難所の備蓄品の整備や「せいいい介護者のつどい」の開催、ホームページへの各施設の空き情報の掲載など概ね計画通り実施することが出来ました。また、地域の独居高齢者への自宅の清掃や昼食提供など新たな取り組みも実施しました。しかし、反面留学生の支援に関する計画は取り組むことが出来ず第4期にむけて継続もしくは更なる内容の再検討の必要性を残すものもありました。また、「友が丘総合事業計画」は仕様変更やグループホームの設置要件について再調整が必要となり、工事業者は決定したものの、2020年5月の着工と大幅にずれ込んでしまいました。しかし、完成後は地域との共生拠点となるよう第4期において準備を進めていきたいと思っております。

第3期全体の振り返りとして「地域における公益的な取組」のなかで交流行事や福祉教育などについては施設や地区が地道に取り組んできている実績があることを再認識することができました。そのうえで今後はそれらに加え、地域のなかで生きづらさを抱えたおひとりお一人に対する視点を持って第4期に繋げていきたいと思っております。(理事 加藤成久)

中期事業目標 ⑥

働きやすく誇りを感じられるカンパニー(共同体)へ

人事考課制度全体は、目標達成度評価結果の期末賞与への反映と共に定着してきたと認識します。わかりやすさが信頼度と考え、人事評価段階を「模範・優秀・良好・要努力・問題」から「優秀・優良・良好・可・要努力」に変更しました。自己評価と上司評価のズレを小さくすることにつながり、その分、評価者の負荷も軽減しました。

国の働き方改革の考え方では、正規職員の職場や職種が異動することを前提にして非正規職員との賃金格差は是認されるものであることが明確になり、そのうえでの「均衡待遇」に必要な特別休暇の整備を行い、また求められる賃金格差の説明書の作成を推進しました。

社会福祉充実計画による非正規職員の賃金改善、正規職員給与と表のベースアップ、課長職手当の増額方策を具体的に検討しましたが、本年度は人員増傾向と共に、特に法人全体のご利用者数の伸び悩み傾向の出現で、充実残額以後の人員費原資に不安が伴い、見送りました。

ワークライフバランスの取組みも続けてきましたが、サービス残業の排除につながった一方で全体的な生産性向上の意思が伴わず、職制者や特定職種の者がむしろ長時間化しているくらいがあり課題です。人件費の上昇が悪いわけではありませんが、生産性を強く考える風土が必要です。有給休暇の消化も進んでいますが、職制者の低調と職員間の偏在が課題です。

危機管理面では、2019年度は新たな重大なトラブルの発生はありませんでした。一方で非常に重大な積年の事案が解決に向かっていきます。多くの人の手をくぐってきた事案が意味するものは、事案を施設任せにすることなく法人全体の強い当事者意識で解決への道筋を考え、そのいわば「工程表」に沿って丁寧に対応を積み重ねていくことの重要性であったと痛感します。(常務理事 吉田和夫)

2019年度

決算報告



【2019年度決算について】

法人本部 事務長 村山 盛光

第3期中期計画(2017年度～2019年度)の1年目、2017年度のサービス活動収益が35.2億円、2018年度36.1億円、そして最終年度の2019年度が36.7億円と、一見着実に社会の要請にお応えできているかのように見えますが、2018年度1.5億円あったサービス活動増減差額が、2019年度には1.2億円と前年比3,400万円の減収となっています。2019年度には、「グループホーム南落合」「グループホームアリエッタ北須磨」と無事2つの新規事業をスタートすることができましたが、それにもかかわらず法人全体ののべ利用者数が前年度より下回ったこと、増収の大半が特定処遇改善加算の算定によるものであること、人件費が前年比5,000万円増となったことが背景にあります。当法人としては、厳しい時期に入ったと認識していますが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大変大きく、より厳しいものになると予想しています。そのような中であって、2021年度開設の但馬地区の「めぐみ事業」(放課後等児童デイサービス・共同生活援助)、神戸地区の「友が丘総合事業」(共同生活援助等)の開設が控えていますので、社会の中でしっかりと役割を果たしていくべく、総合力にて着実に事業を推進して参りたいと思っています。

貸借対照表 [令和2年3月31日現在]

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
	当年度末		当年度末
流動資産	1,783,023	流動負債	293,643
現金預金	1,136,742	短期運営資金借入金	0
固定資産	6,178,126	固定負債	726,934
積立資産	2,609,763	設備資金借入金	169,610
		長期運営資金借入金	65,000
		負債の部 合計	1,020,578
		純資産の部	
		基本金	946,256
		国庫補助金等特別積立金	968,675
		次期繰越活動増減差額	2,415,875
		(うち当期活動増減差額)	146,740
		純資産の部 合計	6,940,571
資産の部合計	7,961,149	負債及び純資産の部 合計	7,961,149

資金収支計算書 [(自)平成31年4月1日 (至)令和2年3月31日]

(単位:千円)

勘定科目	当初予算 (A)	決算 (B)
事業活動収入計 (1)	3,704,443	3,703,446
事業活動支出計 (2)	3,445,055	3,389,390
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	259,388	314,055
施設整備等収入計 (4)	52,247	52,934
施設整備等支出計 (5)	301,117	301,118
施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	-248,869	-248,183
その他の活動収入計 (7)	755,654	754,717
その他の活動支出計 (8)	791,658	782,959
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	-36,004	-28,242
予備費支出 (10)	0	0
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-25,485	37,629
前期末支払資金残高 (12)	1,577,892	1,601,945
当期末支払資金残高 (11)+(12)	1,552,406	1,639,574

事業活動計算書 [(自)平成31年4月1日 (至)令和2年3月31日]

(単位:千円)

科目	当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)-(B)
サービス活動収益 (1)	3,677,153	3,610,842	66,310
経常経費寄附金収益	19,698	15,681	4,016
サービス活動費用 (2)	3,556,621	3,456,070	100,550
人件費	2,581,123	2,530,424	50,699
事業費	369,575	358,815	10,759
事務費	399,711	372,024	27,686
業務委託費 (保守料除く)	186,390	175,042	11,348
減価償却費	223,839	210,351	13,487
国庫補助金等特別積立金取崩額	-74,286	-74,141	-144
サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	120,532	154,772	-34,239
サービス活動外収益 (4)	37,537	31,342	6,195
サービス活動外費用 (5)	11,409	12,880	-1,471
サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	26,128	18,462	7,666
経常増減差額 (7)=(3)+(6)	146,660	173,234	-26,573
特別収益計 (8)	34,804	5,527	29,277
特別費用計 (9)	34,725	2,448	32,277
特別増減差額 (10)=(8)-(9)	79	3,079	-2,999
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	146,740	176,313	-29,573
次期繰越活動増減差額	2,415,875	2,280,363	135,511

参考資料	2019年度	2018年度
流動比率	607.2%	506.4%
純資産比率	87.2%	86.3%
人件費率	70.8%	70.6%
委託比率	5.1%	3.9%
人件費率 + 委託比率	75.9%	74.5%
固定長期適合率	80.6%	80.7%
経常活動収支差額率	3.9%	4.8%
サービス活動収益対借入金比率	1.8%	2.1%
労働分配率	90.0%	88.0%



皆様の
ご支援に
感謝申し上げます。

2月
3月

4月

5月

6月

7月

西難川勝井永中松山浅中松田水井水美藤野田金岡大平田西山平石杉加林藤鈴森栗金長米橋杉
川波口村上島原本本野谷井中野上足部井口島附田谷石路内瀬原原本上井木山原原田田本本
利公拓和哲長差啓善一雄秀多正和康洋安節秀松勝太ヨシ友紘敏友裕秀礼聡義宗成美
子枝也香朗郎崇子一正愛恵寛二和充子雄泉啓郎子子子代郎ヨシミ恵正稔彦紀子明奈子正峻己鈴稔

(敬称略・順不同)

ご寄付のお願い

利用者(障害(児)者・高齢者)の一層のサービス向上に資するため、法人は皆様のご寄付をお願い申し上げます。同封の振替用紙をご利用ください。



牧師 Message

あなたがた(わたしたち)の間に

日本基督教団 神戸愛生伝道所 竹内 富久恵

これは千葉県銚子市のローカル鉄道「銚子電鉄」が販売されている「まずい棒」の写真です。銚子電鉄は電鉄事業を続けるための新商品の販売や映画など話題に事欠かない鉄道会社なのですが、特に去年の台風やコロナの影響で、電鉄の赤字を例年以上に埋められず4期連続での赤字となったことがこの7月に報道されていました。ネットの販売サイトを見ますと、経営状態がまずいから「まずい棒」／とろける食感のお菓子発売「ついでに会社がとけてなくなりそうです」／春になってからハート型の穴の空いたストールを売り出し、社長いわく「経営状態に穴があいて」「穴が開いているだけに、もう破れかぶれです」・・・といった具合。こういったスタイルは2006年の経営危機にさかのぼるのだそうで、当時の経理課長が「ぬれ煎餅(※以前から販売されていた)を買ってください!電車修理代を稼がなくちゃ、いけないんです」と公式ホームページで訴えたことが全国的に話題となり会社を存続させることができたことから今につながっているのだそう。

その後も脱線事故が起きた際に地元の高校生がクラウドファンディングで500万円集めてくれたことがあったりと、それらの「出来事」を振り返りながら、「人と人はどこかでつながっていること」、「苦しいときに助けを求めることは決して恥ずかしいことではないんだということ」、「最後の最後まで諦めないで頑張り続けることによって結果が与えられる」ことを知った、と現社長はHPに書いておられました。また銚子電鉄では旅行代理店の幹部や有名企業の管理職がぬれ煎餅30枚円(ちなみにぬれ煎餅は1枚1円)の報酬で社外取締役をひきうけておられるそうで、その旅行代理店の幹部の方は小田急ロマンスカーの大ファン、決して銚子電鉄ファンではないのですが、社長が「うちにはロマンスカーはないけど、ロマンはある」と説得して役員に就任してもらったとのこ

と。ここには先程の3つの気づきに加えて、赤字という物理的な厳しさへの助けが、物理的には量れない「価値」によって生み出されているという逆説=4つめの気づきが語られているように感じたことでした。

ルカによる福音書は、ファリサイ派の人々が神の国はいつ来るのかと尋ねた折、イエスが「実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」と答えたことを記します(17:20-21)。「神の国」は、神の恵みを共にする神の支配下にある世界、といえるかと思いますが、では私たちの現実はどうか。この新型コロナの状況下、ヴァルネラブルな立場に置かれた人たちのいのちと暮らしは脅かされ、感染リスクへの晒されやすさとの連関や、そもそも「以前からあった構造的な問題である」とも指摘されています。その現実には「あなたがたの間にある」と言われたはずの神の国を生きていないことを確かめさせるとともに、「神の国」は絵空事なのかとの問いを投げかけてきます。しかしだからこそ、「人と人はどこかでつながっていること」、「苦しいときに助けを求めることは決して恥ずかしいことではないんだということ」、「最後の最後まで諦めないで頑張り続けることによって結果が与えられる」ということに加え、物理的にはかかることのできない／しかし大事な「価値」を共有することが、むしろそのどうにもならない状況を動かすちからになるということ、「あなたがた(わたしたち)の間」の「出来事」にしたいと思わされます。絵空事にしてしまわないための働きがキリスト教福祉への求めでもあることを覚えて、あなたがた(わたしたち)の間が出来事へと共に開かれていけますようにと祈ります。